

国連「ESD の 10 年」後の環境教育推進方策懇談会第 1 回会合における  
各委員の発言の概要

1. ESD の良さ・意義について

- 持続可能性に関わる様々な主体・活動・行動を繋ぐ舞台装置としての役割（阿部委員）
- 教育そのものを大きく転換する力（棚橋委員）
- ESD の目指す人材像は、変革へのリーダーシップ（関委員）、つなぐ力（川嶋委員・小川委員）、グローバル＋ローカル（阿部委員）、課題解決力（棚橋委員・小澤委員）、俯瞰的・長期的な視点（棚橋委員・関委員）等
- ESD という言葉が先行する必要はなく、幅広く、結果的に ESD となれば良い（小川委員）

2. ESD の課題とその解決のための基本的考え方

- 子供だけでなく大人・社会人等に対する生涯学習としての環境教育、また、教える者（教師等）への環境教育・ESD 化が必要（川嶋委員・さかなクン委員）
- ESD の質の向上、具体的には、参加型学習・プロジェクト学習の導入、ESD の方法論プログラムの研究・開発、ファシリテーター型教師の養成、研修そのもののコーディネーター・プロフェッショナル養成、つなぐ能力などの専門的な教育、教育の目的を踏まえたプロセス設計等（阿部委員・川嶋委員・小澤委員・棚橋委員）
- 脅しの環境教育から希望の環境教育へ、未来図が描けるようになるような ESD が必要（川嶋委員）
- 幼児期から高等教育期までの、持続的な環境教育の実施（小澤委員）
- 高等教育機関における教養教育の充実・文理融合（小澤委員）
- 市民・事業者・行政の協力、各事業の有機的連携が必要（小川委員）

3. 世界会議に向けた認知度向上策

- 各種メディアや有名人を活用した PR 策、ESD 賛同アピール（阿部委員）
- 世界会議を契機とした、日本が誇る ESD の取組の世界への発信（阿部委員）
- 現地の環境とも調和する日本の伝統的漁法の伝達等による国際貢献（さかなクン委員）

4. ESD を進めるための持続可能な枠組み・仕組みづくり

- 現行 ESD はバラバラに展開されており、ESD の「つなぐ化」を進めるためのネットワークのハブ・プラットフォームとなる組織が必要（阿部委員）
- 文部科学省などの関係省庁や、教育委員会など、関係組織を幅広く巻き込んだ枠組み作り（阿部委員・棚橋委員）
- ESD 地球市民会議、ローカルイニシアティブなど自治体のイニシアティブによる ESD への取組（阿部委員）
- 経団連の ESD 宣言など、経済界との協力体制の強化（関委員）
- ESD 実行計画や工程表の策定、成果の検証などの PDCA システムの構築（実平委員）
- 「見える化」に留まらず、「出来る化」「成果を出す化」へ（実平委員）
- 就職で不利とならないような、適切な人事配置や外部組織との連携（小川委員）
- 耕作放棄地における農業など、他分野との柔軟な結びつきと実践（実平委員）

以上